

令和2年度後期 学群教育改善計画

学群(学部)名	食産業学群
学群(学部)長名	西川正純

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	継続：事前・事後学修について後期は前期のリモートから対面授業に切り替わったこともあり、各教員は課題等を提示しているケースが多かった。しかしながら、事前・事後学修時間の確保はまだ十分でない状況であった。
	理由	対面授業に戻ったこともあり、直接学生へ予習復習の必要性の説明や事前調査、事後課題等の提示は実施しているが、必要性を感じていない、或いは、予習・復習をやらなくても授業に支障がないと考えている学生がいることが考えられる。また、コロナ禍で前期の実験実習を後期へ繰り越して実施したことも影響して、実験・実習のレポート課題が増えて、他の科目の予習・復習に時間が割けないことも原因とも考えられる。
②	課題	継続：専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）の履修者数が多い授業では、理解度が低い傾向にある。
	理由	コロナ禍のため、講義科目はスペースの広いメモリアルホール等を使用し、実験・実習科目は実験室を2つ使用するケースが増えた。講義科目でメモリアルホールを使用している授業では、後方から板書の字やスクリーンが見えにくいこと、実験・実習科目では、目が行き届かないこと等が原因で理解度がより低くなっている可能性が考えられる。また、学生同士が集まったの勉強会（ピアサポート）などを実施できなかったことも影響している可能性がある。
③	課題	入学初年度の基盤教育科目から専門基礎科目、専門科目（実験・実習も含む）への接続に連続性がない。
	理由	現行カリキュラムの構造上、1年次は基盤教育が中心となっており、2年次以降に開講される専門基礎科目や専門科目（実験・実習も含む）間に乖離が生じているためと推察される。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	本課題は継続課題である。各教員はこれまでも毎年、宿題、小レポート、小テスト、グループワーク、練習問題等を提示し、事前・事後学修を促進する取り組みを行っている。本来ならば、それに加えて履修者同士の教え合い、学び合うことで主体的で能動的な学びを実現できるLTD（Learning Through Discussion）を取り入れるなどしていく必要があるが、コロナの影響で簡単ではない状況も伺える。とは言え、本取り組みは継続する必要があることから、一層事前・事後学修を促すよう9月の教員会議・教授会、学類会議を通じてお願いする。その一方、実験・実習科目については、本年度、前期は今のところ時間割通りに実施できていることから、昨年に比べ学生の負担は幾分軽減できる。なお、2年次に集中している実験・実習科目の各年次への変更については、新カリキュラム改編に盛り込んでおり、R4年度から改善が図られる見込みである。
	本課題も継続課題なので、昨年前期に引き続き、双方向型授業やアクティブラーニング授業の一環として、グループワーク、LTD、ピアサポートの実施・活用を徹底させたいところではあるが、コロナ禍のため、容易ではない。このことから、学修支援システムの利用を拡大し、コメントカードやレポート、事前学修（簡単な演習）のオンライン化等々、授業での不明点に対する解説なども含めて履修者全員と情報の共有化を図り、学修の向上に努めるよう、9月の教員会議・教授会、学類会議を通じて依頼していく。
③	本課題については、1年次から専門基礎科目や専門科目（実験・実習も含む）を新カリキュラム改編に盛り込んでおり、R4年度から改善が図られる見込みである。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

授業実施の良い事例・改善例としては、「講義の内容に難解な部分もあったが、詳しく説明することや、難解だった部分を受講学生から吸い上げて、次回の講義で補足している」、「履修者全員のプレゼンテーションの実施など学生による発表は、自主学习を進め理解をより深めることにつながっている」、「講義資料の事前アップと講義録画のアップなど遠隔授業で試行した講義手法を対面授業下でも取り入れている」、「学生側が主体的・能動的に授業に参加できるように毎回ディスカッション課題について議論させた」、「実験操作などは、オンデマンドでビデオ配信して知識の定着を図っている」などであった。

2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

まずは、9月の教員会議・教授会、学類会議を通じて事例を紹介し共有化を図る。さらに、より良い授業の在り方について学群や学類のFD等を企画・実施し、グループ討議なども交えてボトムアップを図る予定である。